

平成28年度 学力向上アクションプラン

尼崎市立杭瀬小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
家庭学習に落ち着いて取り組むこと、家庭での支援を強化することに課題がある。インターネットや携帯電話、スマートフォンの使用時間が多く、学習時間の確保も課題の一つである。家庭への啓発とともに学校でできることをしっかりと行い、学習習慣・学習規律をつけていきたい。また、若手教員が多く、全体の59%が10年未満であり、その半数が5年未満である。教職員の指導力の向上が大きな課題であり、学級経営の安定、より良い授業の創造により、児童の学びに対する意欲を高め、わかる喜びにより自信や自尊感情を高めていきたいと考える。学び方や友だちとの関わりの中から認め合い、高め合いを醸成していく。	○月に1～2回、校内研修会を実施し、授業づくりや学級経営など様々なテーマで職員全体のスキルアップを図る。 ○大学教授を招聘した授業モデル作成(読む能力の育成、活用と、言語活動の充実による思考力の育成を促す学習指導の方法を探る。 ○「比較・分類・多面的・関連・構造化・評価」等の思考スキルを発達段階に応じて、1年次から段階的に学ばせる。そして、「自分の考えを明らかにして、伝え合う力を育成する授業の創造」をめざしていく。若手教員の授業改善につなげる。 ○授業改善アドバイザーの活用	○家庭学習ノート(自主学習ノート)に取り組み、自ら課題を発見・追究、解決する力を養わせる。 ○全学年で『家庭学習の記録』に取り組み、各学年に応じた家庭学習の時間と内容の充実を図る。 ○帯タイムを活用し、話す・聞く・話し合う能力を高めるための活動『わくわくタイム』を全学年で実施(毎学期、週3回で2週間行う。)	○3・4年生は復習を中心とした課題に取り組み、基礎基本の定着を図る。 ○5・6年生は、文章題や全国学力テスト等の過去問題に取り組み、活用力を高める。 ○各学年に応じて、読書量の目標を設定 『読書貯金』の実践。 ○1～3年生は『言葉のスケッチ』を行い、語彙力や表現力が豊かになることを目指す。	①「国語の授業がよくわかる」児童の割合について75%以上を目標とする。 ②「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合について60%以上を目標とする。

校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
○小から中への円滑な接続を図るための児童に関する情報交換。中学校に上げるまでに必ず定着させておくべき基礎的な学力に関する共通理解。 ○小中学校教員合同研修会を実施。 ○夏季合同研修会の実施。	(1)講師招聘支援 (4)放課後等学習支援 (5)学力定着支援	関西大学初等部 松本京子先生 3回[予定]を招聘した授業モデル作成(読む能力の育成、活用と、言語活動の充実による思考力の育成を促す学習指導の方法を探る) ○3・4年生を中心に国語・算数の課題に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ○5・6年生を中心に、考えをまとめたり、要約したりする学習を取り入れ、活用する力の向上を図る ○学生を利用した長期休業中における児童の基礎・基本の定着。 ○授業改善に活かすための教具やワークシートの作成。	○『家庭学習の記録』に関する毎日の点検および、一週間の児童の取り組みに対する評価を保護者が行う。学校と家庭が情報共有しながら学習習慣の定着を図る。 ○校内で学期に一度実施するノート検定について検定後、カードを家庭に持ち帰り保護者からのコメントをもらう。 ○学校だよりを通じ学力調査結果を公表。 ○家庭学習の取り組みや生活習慣に関する実態調査を行う。

学力向上アクションプランとは・・・

杭瀬小学校は、学校教育目標、めざす子ども像の実現にむけて教育活動を進めています。

「学力向上アクションプラン」とは、尼崎市立の全小・中学校において各校が作成している計画です。学校の課題や目標、取組をより明確にし、家庭や地域との連携、校種間の連携の強化を図りながら、学力向上をより効果的、計画的に進めることをめざしています。

学校教育目標

『学ぶ喜びを実感させ、心豊かでたくましい子どもの育成を図る』

めざす子ども像

○自分の良さを伸ばす子 ○思いやりのある子 ○がんばりぬく子

杭瀬小学校の課題

(学力調査結果等から見た課題)

- 家庭学習にしっかりと取り組む。学習時間の確保。 [インターネットやスマートフォン、テレビやゲームの使用時間が多い] (課題)

➡ (取組)・家庭への啓発 ・学校での取組(3～6年生の放課後学習) ★宿題への習慣づけ ★学び方の習得 ★授業での学びの定着



★使用時間や・利用の仕方についてのルールを作り、守らせていくことが大切。

★読書活動の充実などの生活習慣の見直しを。

- 若手教員の育成 授業力・指導力の向上 (課題)

➡ (取組)・校内研修の実施(講師招聘を含めて) ・思考スキルの理解と授業改善 ・授業改善アドバイザーの活用

○「書く能力」「話す・聞く能力」「読む能力」を授業や全校の取組(言葉のスケッチ、百人一首暗唱、わくわくタイム等)で高め、比較したり、関連づけたりすることによって、学習を深めたり、友だちの考えをつなげたりしていきます。これらの取組を関連させながら、「伝え合う力」「思考力」を高め、「自分の考えを明らかにして、伝え合う力を育成」したいと考えています。

○知識を持つこと、語彙力や伝え合う力を持つことは、コミュニケーションにも良い影響を与えます。つい感情的に動いていた児童が、理由を考えたり、相手の気持ちを想像したり、共感したりできる。自分の気持ちをできるだけ相手に分かってもらえるような言葉を見つけたり、“きっと伝わるはず”というゆとりを持って、行動できるようになれば素晴らしいことです。学びはテストの点数だけではなく、その子の豊かな心にもつながり、粘り強く頑張れた自分への自信や誇りにもつながります。少し難しいことにもすぐにあきらめずに取り組める子どもを育てるために、学校と保護者・地域が力を合わせて、子どもたちを認め、褒め、子どもたちの可能性を信じていきたいと考えています。

★学力の三要素・・・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」 バランスよく身につけることが大事。

アクティブラーニング

【兵庫県・尼崎市の指導の重点としてあげられています】

課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習への取組

- ・問題発見・解決の学びの過程。
- ・他者との協働等を通じて自らの考えを広げ深める。
- ・見通しを持って粘り強く取り組み、振り返って次につなげる主体的な学び。

これまでの授業を生かしながら、「めあて」「まとめ」を大切にし、今考えるべきことに切実感をもって取り組み、まとめにおいて自分のわかったことを振り返り、次の疑問や興味につなげる授業を求めています。

ご家庭におかれましては、「早寝」「早起き」「朝ご飯」がしっかりと行えるよう、生活習慣の改善と家庭学習習慣の定着に向けて、勉強時間の設定や点検・評価等、子どもの励みとなるようご協力をよろしくお願いします。朝起きられない、遅刻等は、望ましい学習のスタートにつながりにくいと言えます。